

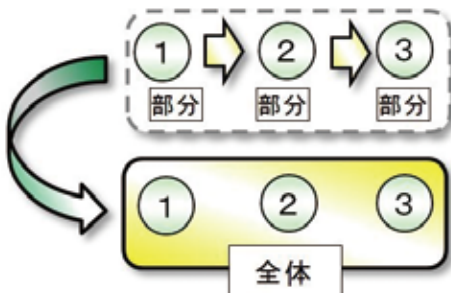
子供一人一人の「分かり方の特性」を生かした指導をしましょう

— 基礎的・基本的な知識・技能などを確実に習得させるために —

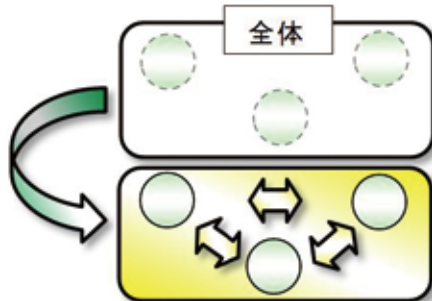
皆さんの周りの児童・生徒はどんな順番や方法で学ぶのが得意ですか。

考える順序

一つ一つの部分を順番に考え、それらをつないで全体を考えることが得意 **【継次処理】**



全体をおおまかにイメージし、部分と部分の関係で考えることが得意 **【同時処理】**



理解する方法

聴覚

聞いて学ぶことが得意



言語視覚

読んで学ぶことが得意



象形視覚

見て学ぶことが得意



体感覚

体感したり、行動したりして学ぶことが得意



児童・生徒一人一人の**考える順序**や**理解する方法**といったことを「**分かり方の特性**」としました。



「分かり方の特性」を生かした指導のよさ

児童・生徒一人一人の得意とする**考える順序**や**理解する方法**をバランスよく学習に取り入れることができ、多くの児童・生徒に基礎的・基本的な知識・技能などを確実に習得させることができます。

「分かり方の特性」を生かした指導は

教科等の単元の特性、教材の分析

A 「情報を**処理**する手段」を生かした指導の構成

継次処理能力優位

継次処理能力優位を生かした指導の構成

段階的な指導	<ul style="list-style-type: none"> ○行程や順序をスモールステップの指導で構成する。 ○具体的な行動(学習活動)を段階的に示して指導を構成する。
部分から全体へ	<ul style="list-style-type: none"> ○小さな要素から大きな要素で指導を構成する。 ○学習内容の部分を捉えてから、全体への理解を促す指導を構成する。
順序性の重視、時間的な視点	<ul style="list-style-type: none"> ○左から右へ、上から下への指導の流れを構成する。 ○項目、番号や記号等での区別や順番、時間に沿った指導を構成する。

同時処理能力優位

同時処理能力優位を生かした指導の構成

全体を踏まえた指導	<ul style="list-style-type: none"> ○要点や概略、全体を捉えられる指導を構成する。 ○行動(学習活動)するための目標、目的や理由を示して指導を構成する。
全体から部分へ	<ul style="list-style-type: none"> ○大きな要素から小さな要素で指導を構成する。 ○学習内容の全体を捉えた後、部分への理解を促す指導を構成する。
関連性の重視、空間的な視点	<ul style="list-style-type: none"> ○始めと終わりの関連性を提示して指導の流れを構成する。 ○全体像、最終目標を示した中で指導を構成する。

単元、一単位時間や学習活動の流れを考える際に、どちらの優位性を生かした指導を展開するか選択する観点となります。

A の観点を基に、教科等の特性を踏まえて指導を構成し、B を基に、学習活動に合わせて具体化した手だてを取り入れます。そして C の配慮がなされているか確認して一つの学習活動を組み立てます。

以下のように構築していきます。

児童・生徒の実態の把握

B 「情報を**知覚**する手段」を生かした指導の手だて

聴覚優位
音声情報など
言語視覚優位
文字や文章を読むことなど
象形視覚優位
図・絵・写真・表など
体感覚優位
体感・行動するなど

※詳細な手だての観点表は次頁

C 学習に集中しやすくするための配慮

時間	<ul style="list-style-type: none"> ○見る、聞く、書く、読む、話す、思考するなどのそれぞれの学習活動を、ねらいに沿って、時間を分けて構成する。 ○集中を持続させることができる時間配分で学習活動を構成する。
空間	<ul style="list-style-type: none"> ○椅子の高さや机の向きなどに配慮し、集中できるようにする。 ○学習の場に関して光、音、風などに配慮し、学習を妨げないようにする。 ○授業に必要な文字や絵など、情報を精選して表示・掲示する。
人	<ul style="list-style-type: none"> ○人間関係等を考慮した座席の位置を設定する。 ○ペアやグループで活動する際は、意図的な組み合わせにする。
物	<ul style="list-style-type: none"> ○学習の要点やキーワード等は、掲示できるように準備する。 ○活動の流れやルールなどを分かりやすいように掲示する。 ○必要な教具を準備する場所や片付ける場所を決めて指導する。

学習活動において取り入れる指導の手だての観点となります。

授業を行う上で必要な学習環境等の配慮の観点となります。

子供一人一人に配慮したきめ細かな単元構成・学習過程・学習指導の構築をしていきます。

聴覚優位を生かした手だて

発問・指示・説明の明確化	<ul style="list-style-type: none"> ○専門用語や新出語、名称は繰り返し言う。 ○話をしたり、説明をしたりする際は、児童・生徒全員が聞き取りやすい位置から行う。
既習事項の確認	<ul style="list-style-type: none"> ○絵などで示されたものを音声言語で表す。 ○学習における用語等を正確に表現する。
学習の動機付けや意欲の継続化の支援	<ul style="list-style-type: none"> ○音声教材を聞かせたり、重要なことは繰り返し言ったりする。 ○歌や語呂合わせなどリズムやメロディを付けて聞かせる。 ○意欲や集中が続くよう、口頭で励ます。
個別の支援	<ul style="list-style-type: none"> ○児童・生徒の思考や問題解決への過程を音声言語化する。 ○肯定的な言葉を掛けることにより支援を図る。 ○教科等の特性に合わせて口頭で助言する。
まとめ・振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ○学習を板書で振り返り、重要な部分を読み直して確認する。 ○学習の中で、どのように考えたのかななどを口頭で確認する。 ○どこまでねらいを達成できたのか口頭で説明する。
学習形態の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ○友達の意見を聞くことができる活動を設定する。 ○活動内容、場面の切り替えを声の大きさや効果音等を用いて知らせる。

言語視覚優位を生かした手だて

発問・指示・説明の明確化	<ul style="list-style-type: none"> ○めあてや学習問題、主発問等を言語で板書又はカード等で文字情報として示す。 ○構造的に板書し、ノートが書きやすいようにする。 ○考えるべき項目や考えの助けとなる事項を箇条書きで示す。
既習事項の確認	<ul style="list-style-type: none"> ○既習事項をキーワードなどの文章で示す。 ○前時までの学習内容などを言葉で掲示する。 ○学習を教科書の記述から振り返ることができるようにする。
学習の動機付けや意欲の継続化の支援	<ul style="list-style-type: none"> ○めあての文言を明確に示し、意欲をもてるようにする。 ○フラッシュカードやヒントカード、テロップなどを用いる。 ○他者から感想や意見を書いてもらえる学習を取り入れる。 ○教師や友達が文章で励ましのコメントをする。
個別の支援	<ul style="list-style-type: none"> ○内容を理解する手掛かりとなる文字情報を示す。 ○作業や考える順序を書いたカードなどを掲示する。 ○発表したり、伝えたりするときの話型を示す。 ○教科書の該当箇所を伝え、読んで理解できるようにする。
まとめ・振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ○板書を構造化し、板書を読むことで学習内容が分かるようにする。 ○本時の学習内容と対応する教科書等の箇所を示し、文章で学習内容を振り返ることができるようにする。
学習形態の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ○自他の思考や作業過程を文字情報で明示することができる活動を設定したり、教具を用いたりする。 ○文章で自分の考えや他者の考えを伝え合う活動を設定する。

基に、教科等の特性や児童・生徒の実態に応じて、取り入れます。

象形視覚優位を生かした手だて

発問・指示・説明の明確化	<ul style="list-style-type: none"> ○めあての枠囲みや流れの図示などを行い、構造的な板書にする。 ○映像、絵、図、文字を表示して場面や課題等を説明する。 ○考えるべき項目について図式化して提示する。 ○考えの助けとなる事項を映像や図、絵などで提示する。
既習事項の確認	<ul style="list-style-type: none"> ○学習で使うプリントやワークシートは、思考しやすいように図式化し、読んだり書いたりする際に見やすいようにする。
学習の動機付けや意欲の継続化の支援	<ul style="list-style-type: none"> ○復習教材をICT機器を用いて行う。 ○教材に絵や図などの情報を取り入れる。 ○シールやスタンプ、数値などで評価を行う。 ○ヒントカードやテロップ、場面を表す絵などを用いる。
個別の支援	<ul style="list-style-type: none"> ○絵や具体物、シンボル等を示す。 ○理解の手掛かりとなる視覚的な情報を示す。 ○注目する文を色でぬったり、図示したりして説明する。
まとめ・振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ○理解度や学習の進度を数値や段階で表せるようにする。 ○本時のねらいの達成の目安を表や図、絵などで示す。 ○学習活動の進捗状況を図に表し、黒板等に示す。
学習形態の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ○自他の思考や作業過程を可視化できる教具を用いる。 例) 付箋紙を用いた整理、ミニホワイトボード、タブレットPC、選択的な課題やヒントカードの使用、色分けによる分類など

体感覚優位を生かした手だて

発問・指示・説明の明確化	<ul style="list-style-type: none"> ○ノートやワークシートに書かせたり読み上げさせたりする。 ○考えを動作化したり、ロールプレイなどで表現させたりする。 ○操作活動や体験的な活動を取り入れる。
既習事項の確認	<ul style="list-style-type: none"> ○擬態化や動作化しながら取り組むことができるようにする。 ○言葉で復唱し、実際に用具を動かす活動を取り入れる。
学習の動機付けや意欲の継続化の支援	<ul style="list-style-type: none"> ○リズムや歌に合わせて覚える。 ○擬態化や動作化しながら取り組むことができるようにする。 ○具体物などを操作して問題を解く。 ○繰り返し読ませたり暗唱したり、書かせたりして練習する。
個別の支援	<ul style="list-style-type: none"> ○分からないところを指し示させたり、言わせたりする。 ○作業をしながら理解できるようにする。 ○自分で理解の手掛かりとなる教材や資料を選択させる。
まとめ・振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ○学習の振り返りをペアで行ったり、グループで行ったりする。 ○課題解決に向けてどのような考えや工夫などが使われたのか具体物を提示する。
学習形態の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ○話合いや作業を役割分担するなど、協働して課題解決を図ることができる学習活動を設定する。

分かり方の特性を生かした指導の工夫を取り入れた実践事例①

小学校第2学年 国語 「ようすをあらわすことば」 (第1時/全4時間)

本時の目標

- ・雨の写真や音を基に、様々な雨の降り方を想像し、様子を表す言葉を探ることができる。

A 処理の特性を生かした指導の構成<継次処理能力優位>

- ・雨の降り方を想像する手だてとして、音声教材と写真を**順番に提示**していき、雨の降り方を**段階的に想像できるようにする**。
- ・3種類の雨の降り方の場面で、様子を表す言葉を指導し、**その学習を生かして**様々な場面で様子を表す言葉を使った文章作りを行えるようにする。



B 感覚の特性を生かした主な指導の手だて

授業の展開

- 1 導入
 - 「雨が□ふっている。」に合う言葉を考える。
 - 雨の降り方を表す言葉探しをすることを確認する。
- 2 展開(1)
 - 激しく強い雨の降り方を想像する。
 - 弱い雨の降り方を想像する。
 - 普通の雨の降り方を想像する。
- 3 展開(2)
 - 雨の降り方を表す言葉を発表し、降り方に合わせて分類する。
- 4 まとめ
 - 様子を表す言葉はたくさんあり、様子によって少しずつ表現が違うことをまとめる。
 - 次時に様子を表す言葉を、分類・整理することを伝える。

□支援のポイント

- 聴覚** 数種類の**雨の音を順番に聞かせ**、雨の降り方の違いを意識できるようにする。
- 体感覚** それぞれの**雨の降り方を動作化する**ように促し、①擬音語②別の物を用いた喩え③体感の観点で表現できるようにする。
- 視覚** 雨が降っている場面を表す**写真と児童が作成した短冊を並べ**、視覚的に分かりやすく板書する。
- 言語** 雨が降っている場面を表す言葉と写真を関連させながら、**板書された言葉を振り返る**ようにする。

C 学習環境の配慮

- 時間…雨の音を聞く時間、考えを書く時間、学級全体で発表をする時間などそれぞれの活動を分けて指導を構成する。
- 空間…使い終わった教材は、児童の視野に入らないところに片付ける。
- 人……話し合い活動が円滑にできるようグループ等の構成に配慮する。
- 物……児童が考えた言葉を掲示できる短冊を用意する。

分かり方の特性を生かした指導の工夫を取り入れた実践事例②

中学校第1学年 外国語 **「Our New Friend」(疑問文の語順理解)** (第1時/全4時間)

本時の目標

- ・相手や先生のことについて互いに質問し合いながら交流を深め、疑問詞 whoseとその答え方についての意味・用法・語順について理解する。

A 処理の特性を生かした指導の構成<同時処理能力優位>

- ・ **初めに画像や実物を活用して、実際の場面を提示**し、その後、学習する表現の意味を推測する活動を通して、その場面で使用する疑問詞と答え方を理解できるようにする。
- ・ **これまでに学習した疑問文を仲間分けする活動**を通して、疑問詞や語順に着目させ、それぞれの違いを理解できるようにする。



B 感覚の特性を生かした主な指導の手だて

授業の展開

- 1 挨拶・ウォームアップ
- 2 導入
 - 設定された場面を知り、疑問詞 Whoseの意味を推測し、本時で学習する表現を知る。
- 3 展開(1)
 - 本時で学習する疑問文と既習の疑問文を比較する活動を行う。
- 4 展開(2)
 - 場面に応じて単語を変化させ、英語表現の pattern practice (口頭練習)を行う。
- 5 展開(3)
 - 「他の人の持ち物の持ち主を探し、持ち主に返す」活動に、information gapを設定し、学んだ表現を活用する。
- 6 まとめ

□支援のポイント

聴覚 実際にモデルを示す中で、**英語表現を繰り返しはっきり聞かせ**、表現と使用場面を結び付けられるようにする。

視覚 本時で学習する疑問文と既習の疑問文の仲間分けをする活動を**タブレットPCで行うことで、視覚的に比較**することができるようにする。

言語 学習する疑問文と応答文を板書し、**言葉を読んで練習**できるようにする。

体感覚 **教室内や生徒の持ち物、ICT機器を活用**し、場面に応じた英語表現を用いて活動できるようにする。

C 学習環境の配慮

- 時間…活動が間延びしないよう短い活動を多く取り入れて指導を構成する。
- 空間…プロジェクター画面を生徒全員が見やすいよう設置場所を工夫するとともに、生徒が実際に動いて活動しやすいようにする。
- 人……ペアワークを活性化させるため、ペアを毎回変えるなどして工夫する。
- 物……タブレットPC、本時で学習する表現のフラッシュカードを用意する。

児童・生徒の得意な処理の傾向を簡易的に把握するためのリストです。

	継次処理能力に優位性がある ○	同時処理能力に優位性がある ○
1	次は何をするのかなどについて、順番に説明する活動を行うことができる。	何をするのかを説明しなくても、友達の様子や雰囲気を見て、活動することができる。
2	学習の内容が部分ごとに順序良く提示されたとき、集中して学習している。	学習の内容が全体的に提示されたとき、集中して学習している。
3	絵本や本を読むときに、文を手掛かりに内容を把握しようとしている。	絵本や本を読むときに、絵を手掛かりに内容を把握しようとしている。
4	物事等の説明をさせると、場面の経過に沿って話すことが多い。	物事等の説明をさせると、内容の大体を話すことが多い。
5	説明書やマニュアルがあると、集中して取り組める。	完成図や完成品などがあると、集中して取り組める。
6	状況などを説明するときに、具体的な名称や言葉で説明することが多い。	状況などを説明するときに、「ダーっと言って」のような擬態語などで雰囲気を伝えようとする人が多い。
7	ペーパーテストや問題集の問題を、順番に解いている。	ペーパーテストや問題集の問題を、全体を見て、できそうな問題から解いている。
8	声に出して覚えるのが得意である。	図表や絵を見て覚えるのが得意である。
9	計算するときに、途中の式を書いて解いている。	計算するときに、途中の式を書かずに解いている。
10	図表を読むことが苦手である。	図表を読むことが得意である。
11	工作などでは、パーツや部分に注目して、作り始めることが多い。	工作などでは、大まかな形から作り始めることが多い。

出典：平成 27 年度 「東京都教職員研修センター紀要 第 15 号」

チェックをし、「継次処理能力」、「同時処理能力」のより多く○が付く方に優位性の傾向があると、簡易的に把握することができます。

このリストは、あくまで傾向があることを簡易的に把握するものです。情報の処理の能力は、通常それぞれどちらかに依存しているわけではなく、相互に補完しながら理解に至ります。あくまで、「どちらかという、その処理能力に優位な傾向がある」ということです。

また、児童・生徒に傾向があるだけでなく、教師自身にも傾向があります。その傾向を簡易的に把握することで、普段の指導や支援の方法に偏りが無いか振り返ることができます。

平成 28 年度 東京都教職員研修センター 教育課題研究

「子供一人一人の『分かり方の特性』を生かした指導法に関する研究」指導資料

東京都教職員研修センター印刷物登録 平成 28 年度第 11 号

発行：平成 29 年 3 月

発行者：東京都教職員研修センター研修部教育開発課

所在地：東京都文京区本郷 1-3-3 電話：03-5802-0307

印刷所：株式会社 清光社（所在地：東京都北区滝野川 7-32-9）

リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。